

大型車の車輪脱落事故等調査票

事業者情報

1. 事業者情報	事業者名	〇〇運輸株式会社
	営業所名	〇〇 営業所
	営業所配置車両数	10 両
	整備管理者氏名(兼職者は兼職内容、外部委託者はその旨を記載)	〇〇 〇〇(代表取締役兼運行管理者)
	自家整備工場(認証工場)の保有	☒ 無 (過去に保有していた ☐ 過去から保有なし) ☐ 有
2. 自社での車両メンテナンス状況	⑧トルクレンチの保有状況	◆トルクレンチ保有: ☒ 有 ☐ 無 ※有の場合は校正実施 ☒ 有 (1 年毎に実施) ☐ 無 ※校正実施無の場合: ☐ 知らない ☐ 知っているが実施していない (理由:)
4. タイヤ交換等への整備管理者の関与	①交換作業時	☐ 作業立ち会い ☒ 作業報告で確認 ☐ 関与していない ☐ その他 ()
	②増し締め作業時	☐ 作業立ち会い ☒ 作業報告で確認 ☐ 関与していない ☐ その他 ()
	③外注作業時	☒ 作業報告で確認 ☐ 関与していない ☐ その他 ()
5. 脱輪事故防止に関する社内教育	①タイヤ交換・ローテーション作業時において脱輪防止のため留意している事項	・ホイールナットマーカの使用 ・ボルト・ナットへのマーキング
	②上記の留意事項は社内ですべてのスタッフが知っているか。(複数選択可)	☐ 役員 ☒ 整備管理者 ☒ タイヤ交換者 ☐ 運転者 ☐ その他: ()
	③国土交通省から通知している脱輪防止対策の社内周知方法	☐ 周知していない ☐ 掲示、回覧で周知 ☒ 定例会議等で周知 ☐ その他: ()
	④脱輪事故防止対策の実行状況の把握方法	☐ 把握していない ☒ 作業中、運転者から報告させている ☐ 整備管理者が確認している ☐ その他 ()

車輪脱落事故情報

6. 事故発生年月日	令和 ○ 年 ○ 月 ○ 日 15 時 10 分頃		当日の天候:	くもり
7. 事故発生場所	発生地名: ○○県○○市○○町○○丁目○○-○○ ☒ 一般道路(名称: 例: 国道17号線上武道路) ☐ 高速道路又は自動車道(名称: 例: 関越自動車道 ○○キロポスト)			
8. 事故車両概要	登録番号	群馬○○○あ○○○○		
	車名	○○		
	当日の積載物品名	冷凍・冷蔵食品		
	総走行距離	123,456 km		
	脱輪した箇所	☐ 右側 ☒ 左側 ☐ 前輪(二軸の場合: ☐ 前々 ☐ 前後) ☒ 後輪(二軸以上の場合: ☒ 後前 ☐ 後中 ☐ 後々)		
	脱輪したタイヤの本数	☐ 1本 ☒ 2本		
	脱輪の主な原因	☒ ナットの緩み ☐ ボルトの折損 事故現場からのナットの回収状況 (☒ 6 個回収 ☐ 見つからなかった ☐ 不明)		
	脱輪車輪以外の車輪のナットの緩みの有無	☒ 有 ☐ 無 ※有の場合の緩みの箇所 ☐ 不明 ☐ 前右 ☒ 前左 ☐ 後右 ☐ 後左		
	ホイールの種類	☒ アルミホイール ☐ スチールホイール		
	ホイールボルト・ナット方式	☐ JIS方式 { ☐ アルミ用 ☐ スチール用 } ☒ ISO/新ISO方式 { ☒ アルミ用 ☐ スチール用 }		
	履き替え等からの走行距離	230 km ☐ 不明		
	9. 事故概要	【概要】 ●●市で荷積み後、●●市にむけて運行中、●時●分頃当該地点において、前方の信号が赤だったことから減速していたところ、後前軸左側の車輪2本が脱落し、脱落した車輪が前方を走行していたバスの車体後部に衝突した。 この事故によるけが人は無かった。 【損害の程度】 ☐ 無 ☒ 有 ⇒ ☒ 物損 ☐ 人身(死亡 人・重傷 人・軽傷 人)		
10. メーカー等による車両見分	☒ 実施 ☐ 未実施	令和 ○ 年 ○ 月 ○ 日		
11. 事故直近の車両点検、整備状況	[3]か月点検	●令和 ○ 年 ○ 月 ○ 日実施 ●実施者名: ○○自動車整備株式会社 ○○店		
	臨時整備	●令和 ○ 年 ○ 月 ○ 日実施 ●実施者名: ○○自動車整備株式会社 ○○店		

12. 脱輪事故直近のタイヤ、ホイールの整備状況	タイヤ脱着作業の状況	◆直近の車輪脱着日: 令和 ○ 年 ○ 月 ○ 日
		◆作業内容: タイヤ交換
		◆実施者: ※実施者が複数の場合は、複数選択可 ☒ 自社(☐ 運転者 ☒ 整備管理者等 ☐ 自家整備工場) ☐ 外注(☐ タイヤショップ ☐ 整備工場 ☐ その他)
		◆使用工具: ※複数選択可 ☒ インパクト ☒ トルクレンチ ☐ トルクセッター ☐ その他
		◆締め付けトルク: 600 N・m ☐ 不明
		◆ホイールボルト・ナットの汚れの状況: ☐ 有 ☒ 少し有 ☐ 無 ☐ 不明
		◆ホイールボルト・ナットの錆の状況: ☐ 有 ☒ 少し有 ☐ 無 ☐ 不明
		◆作業時のホイールナットの回り具合: ☐ スムーズ ☐ 少し引っかかり有 ☒ 不明
		◆ホイールボルトのねじ部及びナット部の点検実施: ☐ 有 ☒ 無 ☐ 不明
		◆ホイールボルトのねじ部及びナット部の清掃実施: ☐ 有 ☒ 無 ☐ 不明
		※有の場合は具体的な清掃方法: ☐ ワイヤブラシ ☐ その他: ()
		◆ホイールボルトのねじ部の潤滑材塗布: ☐ 有 ☒ 無 ☐ 不明
		◆ホイールナットとワッシャーの間の潤滑剤塗布: ☐ 有 ☒ 無 ☐ 不明
		※潤滑剤の種類: ☐ メーカー指定品(名称:) ☐ 指定品以外(商品名:)
		◆事故防止通達に基づく作業管理表(外注は作業報告)の使用・管理: ☒ 有 ☐ 無
◆有 (☐ 直近の脱着時 ☐ 過去 年 月) ☒ 無 ☐ 不明		
脱輪事故当日の日常点検の実施状況	※ホイールナットの締め付け状態の点検	◆実施者名: ※実施者が複数の場合は、複数選択可 ☒ 運転者 ☐ 整備管理者 ☐ 整備担当者 ☐ その他 ()
		◆実施時期: ☒ 運行前 ☐ 運行途中 ☐ 帰庫時 ※複数選択可
		◆実施方法: ☒ マーキング確認 ☐ 点検ハンマー ☐ トルクレンチ ☐ その他: ()
		◆目視確認の導入: ☒ 有 (☒ マーキング ☐ インジケーター等装着) ☐ 無
		◆事故防止通達に基づく日常点検表の使用: ☒ 有 ☐ 無
増し締めの実施 (50~100km走行後の増し締め)		☒ 実施 ☐ 未実施
		【実施の場合】
		◆実施時期: 交換後(150 km ・ 2 日) で実施
		◆実施者: ※実施者が複数の場合は、複数選択可 ☒ 自社(☐ 運転者 ☒ 整備管理者等 ☐ 自家整備工場) ☐ 外注(☐ タイヤショップ ☐ 整備工場 ☐ その他)
		◆使用工具: ☐ インパクト ☒ トルクレンチ ☐ トルクセッター ☐ その他
		◆締め付けトルク: 600 N・m ☐ 不明
		◆増し締めの認知状況: ☒ 知っている ☐ 聞いたことはある ☐ 知らない
◆事故防止通達に基づく作業管理表の使用・管理: ☒ 有 ☐ 無		
13. 補足事項等 (12.において、通常は実施しているが、事故車両については実施しなかった場合や、通常と異なる方法で実施したなどあれば理由等も含めて記載)	例 ・作業時間を短縮するため、潤滑剤の塗布を省略した。 ・マーキングにずれが生じていなかったため、増し締めの実施を省略していた。	

14. 事業者による原因調査の実施状況	☒ 実施 ☐ 未実施 ◆実施の場合は実施状況 例 ・タイヤ交換時での作業時に義務づけしていた潤滑剤の塗布の実施がされていなかった。また、整備管理者による確認を失念していた。 など。
15. 推定原因	例 ・ボルト・ナットの潤滑不足による軸力低下と思われる。 ・トルクレンチでの締め付け忘れによる緩みと思われる。 など。
16. 再発防止策	例 ・事故後、全車のホイールボルト及びナットの状態を自動車ディーラーにおいて確認した。（●月●●日終了 全車異常なし） ・3ヶ月点検時に潤滑剤の塗布を確実に実施、ホイールボルト・ナットは定期交換部品に定めた。（目安4年） など。
推定原因の背後要因を記載	例 ・整備管理規程により、タイヤ交換時にはホイールボルト・ナットの潤滑剤の塗布を義務づけていたが、作業時間を短縮するため作業を省略していた。また、作業後の整備管理者とのダブルチェックの実施をしていなかった。 など。

大型車の車輪脱落事故等調査票

記載例

事業者情報

1. 事業者情報	事業者名	〇〇運輸株式会社
	営業所名	〇〇 営業所
	営業所住所	〇〇県〇〇市〇〇町〇〇丁目〇〇-〇〇
	営業所配置車両数	10 両
	整備管理者氏名(兼職者は兼職内容、外部委託者はその旨を記載)	〇〇 〇〇(代表取締役兼運行管理者)
	整備管理補助者選任の有無(有の場合は、氏名を記載)	☐ 無 ☒ 有 (〇〇 〇〇)
	自家整備工場(認証工場)の保有	☒ 無 (過去に保有していた 〇 過去から保有なし) ☐ 有
2. 自社での車両メンテナンス状況	①車両管理担当者	【氏名、役職等】【 〇〇 〇〇 、 整備管理者 】
	②車両管理責任者	【氏名、役職等】【 〇〇 〇〇 、 代表取締役 】
	③定期点検整備の実施状況	【3ヶ月点検】 ◆実施者: ☒ 自社 ☐ 整備工場 ☐ その他 () ※自社の場合は実施者役職: 整備管理者 【12ヶ月点検】 ◆実施者: ☐ 自社 ☒ 整備工場 ☐ その他 () ※自社の場合は実施者役職:
	④日常点検の実施状況等	◆実施者: ☒ 運転者 ☐ 整備管理者等 ☐ その他 () ※実施者が複数の場合は、複数選択可 ◆実施時期: ☒ 運行前 ☐ 運行途中 ☐ 帰庫時 ※複数選択可 ◆実施方法: ☒ マーキング等確認 ☐ 点検ハンマー ☐ トルクレンチ ☐ その他 () ◆目視確認の導入: ☐ 無 ☒ 有 (☒ マーキング ☐ インジケータ等装着) ◆事故防止通達に基づく日常点検表の使用: ☐ 有 ☐ 無
	※ホイールナットの締付状態の点検状況	
	⑤自社でのタイヤ交換・ローテーション等の実施状況	◆実施者: ☒ 自社 (☐ 運転者 ☒ 整備管理者等 ☐ 自家整備工場) ☐ 外注 (☐ タイヤショップ ☐ 整備工場 ☐ その他) ※実施者が複数の場合は複数選択可。外注の場合は【3】も記入 ◆使用工具: ※複数選択可 ☒ インパクト ☒ トルクレンチ ☐ トルクセッター ☐ その他 ◆締め付けトルク: 600 N・m ☐ 不明 ◆ホイールボルトのねじ部及びナット部の点検実施: ☒ 有 ☐ 無 ☐ 不明 ◆ホイールボルトのねじ部及びナット部の清掃実施: ☒ 有 ☐ 無 ☐ 不明 ※有の場合は具体的な清掃方法: ☒ ワイヤブラシ ☐ その他: () ◆ホイールボルトのねじ部の潤滑材塗布: ☒ 有 ☐ 無 ☐ 不明 ◆ホイールナットとワッシャーの間の潤滑剤塗布: ☒ 有 ☐ 無 ☐ 不明 ※潤滑剤の種類: ☐ メーカー指定品(名称:) ☒ 指定品以外(名称: 〇〇ケミカル) ◆事故防止通達に基づく作業管理表の使用・管理: ☐ 有 ☐ 無
	⑥増し締めの実施(50~100km走行後の増し締め)	☒ 実施 ☐ 緩みがあれば実施 ☐ 未実施 【実施の場合】 ◆実施時期: ☒ 交換後 (100 km ・ ー 日) で実施 ☐ 帰庫時に実施 ※複数選択可 ◆実施者: ☒ 自社 (☐ 運転者 ☒ 整備管理者等 ☐ 自家整備工場) ☐ 外注 (☐ タイヤショップ ☐ 整備工場 ☐ その他) ※実施者が複数の場合は複数選択可。外注の場合は【3】も記入 ◆使用工具: ☐ インパクト ☒ トルクレンチ ☐ トルクセッター ☐ その他 ◆締め付けトルク: 600 N・m ☐ 不明 ◆増し締めの認知状況: ☒ 知っている ☐ 聞いたことはある ☐ 知らない ◆事故防止通達に基づく作業管理表の使用・管理: ☒ 有 ☐ 無

	⑦ホイール・ボルト、ナットの交換基準	☐ 定めていない ☒ 定めている(交換頻度 4 年毎)
	⑧トルクレンチの保有状況	◆トルクレンチ保有: ☒ 有 ☐ 無 ※有の場合は校正実施: ☒ 有 (1 年毎に実施) ☐ 無 ※校正実施無の場合: ☐ 知らない ☐ 知っているが実施していない (理由:)
3. 外注による車両メンテナンス状況	外注によるタイヤ交換・ローテーション等の実施状況【外注している場合のみ記入】	◆実施事業者名: ◆トルクレンチ保有: ☐ 有 ☐ 無 ☐ 不明 ※有の場合は外注先のトルクレンチ校正状況: ☐ 有 ☐ 無 ☐ 不明 ◆使用工具: ※複数選択可 ☐ インパクト ☐ トルクレンチ ☐ トルクセッター ☐ その他 ◆締め付けトルク: N・m ☐ 不明 ◆ホイールボルトのねじ部及びナット部の点検実施: ☐ 有 ☐ 無 ☐ 不明 ◆ホイールボルトのねじ部及びナット部の清掃実施: ☐ 有 ☐ 無 ☐ 不明 ※有の場合は具体的な清掃方法: ☐ ワイヤブラシ ☐ その他: () ◆ホイールボルトのねじ部の潤滑材塗布: ☐ 有 ☐ 無 ☐ 不明 ◆ホイールナットとワッシャーの間の潤滑剤塗布: ☐ 有 ☐ 無 ☐ 不明 ※潤滑剤の種類: ☐ メーカー指定品(名称:) ☐ 指定品以外(商品名:) ◆ホイールボルトやナットの交換基準: ☐ 有 ☐ 必要に応じて交換 ☐ 特になし ◆ホイールボルトやナットの交換状況: ☐ 必ず交換 ☐ 交換を勧められる ☐ 特になし ◆外注先からの増し締めアドバイス: ☐ 受けている ☐ 受けていない ☐ 不明 ◆外注先からの作業報告: ☐ 有 ☐ 無
4. タイヤ交換等への整備管理者の関与	①交換作業時	☐ 作業立ち会い ☒ 作業報告で確認 ☐ 関与していない ☐ その他 ()
	②増し締め作業時	☒ 作業立ち会い ☐ 作業報告で確認 ☐ 関与していない ☐ その他 ()
	③外注作業時	☐ 作業報告で確認 ☐ 関与していない ☐ その他 ()
5. 脱輪事故防止に関する社内教育	①タイヤ交換・ローテーション作業時において脱輪防止のため留意している事項	潤滑剤の塗布、締め付け後マーキング
	②上記の留意事項は社内ですべてが知っているか。(複数選択可)	☐ 役員 ☒ 整備管理者 ☒ タイヤ交換者 ☒ 運転者 ☐ その他: ()
	③国土交通省から通知している脱輪防止対策の社内周知方法	☐ 周知していない ☒ 掲示、回覧で周知 ☒ 定例会議等で周知 ☐ その他: ()
	③脱輪事故防止対策の実行状況の把握方法	☐ 把握していない ☒ 作業、運転者から報告させている ☒ 整備管理者が確認している ☐ その他 ()

車輪脱落事故情報

6. 事故発生年月日	令和 ○ 年 ○ 月 ○ 日 15 時 10 分頃		当日の天候:	晴れ
7. 事故発生場所	発生地名: ○○県○○市○○町○○丁目○○-○○ ☒ 一般道路(名称: 例: 国道17号線上武道路) ☐ 高速道路又は自動車道(名称: 例: 関越自動車道 ○○キロポスト)			
8. 事故車両概要	登録番号	群馬○○○あ○○○○		
	車名	○○		
	当日の積載物品名	冷凍・冷蔵食品		
	総走行距離	123,456 km		
	脱輪した箇所	☐ 右側 ☒ 左側 ☐ 前輪(二軸の場合: ☐ 前々 ☐ 前後) ☒ 後輪(二軸以上の場合: ☒ 後前 ☐ 後中 ☐ 後々)		
	脱輪したタイヤの本数	☒ 1本 ☐ 2本		
	脱輪の主な原因	☐ ナットの緩み ☒ ボルトの折損 事故現場からのナットの回収状況 (☐ 個回収 ☒ 見つからなかった ☐ 不明)		
	脱輪車輪以外の車輪のナットの緩みの有無	☐ 有 ☒ 無 ※有の場合の緩みの箇所 ☐ 不明 ☐ 前右 ☐ 前左 ☐ 後右 ☐ 後左		
	ホイールの種類	☒ アルミホイール ☐ スチールホイール		
	ホイールボルト・ナット方式	☐ JIS方式 { ☐ アルミ用 ☐ スチール用 } ☒ ISO/新ISO方式 { ☒ アルミ用 ☐ スチール用 }		
履き替え等からの走行距離	1500 km ☐ 不明			
9. 事故概要	【概要】 ●●市で荷積み後、●●市にむけて運行中、●時●分頃当該地点において、前方の信号が赤だったことから減速していたところ、後前軸左側の車輪2本が脱落し、脱落した車輪が前方を走行していたバスの車体後部に衝突した。 この事故によるけが人は無かった。			
	【事故当日の運行経路】 車庫8:00 ~ 9:30○○市○○倉庫10:15 ~ 11:20○○市○○店12:00 ~ 休憩13:00 ~ 13:30○○市○○店14:10 ~ 帰庫15:00			
	【運転者の口述概要】 日常点検では、マーキングを確認、特段マーキングずれは生じていなかった。 脱輪時は、減速中40km/hになったところで、車両後部より強い振動があった。			
	【車輪脱着作業実施者等の口述概要】 潤滑剤の塗布、増し締め確認は整備管理者立ち会いのもと実施していた。			
	【損害の程度】 ☐ 無 ☒ 有 ⇒ ☒ 物損 ☐ 人身(死亡 人・重傷 人・軽傷 人)			
10. メーカー等による車両見分があれば記載	☒ 実施 ☐ 未実施 令和 ○ 年 ○ 月 ○ 日			
	結果 例 ・●●県警が●●市の●●●において実施。(自動車ディーラー)本社、(自動車メーカー)本社、●●運輸株式会社本社、●●運輸支局が立会う(10時10分~11時30分)。 ・ホイールボルト6本のうち、4本について伸び(ピッチの増大)が確認された。また、そのう			
11. 事故直近の車両点検、整備状況	[3]か月点検	●令和 ○ 年 ○ 月 ○ 日実施 ●実施者名: ○○ ○○(整備管理者)		
	臨時整備	●令和 ○ 年 ○ 月 ○ 日実施 ●実施者名: ○○自動車整備株式会社		

12. 脱輪事故直近のタイヤ、ホイールの整備状況	タイヤ脱着作業の状況	◆直近の車輪脱着日: 令和 ○ 年 ○ 月 ○ 日
		◆作業内容: タイヤローテーション
		◆実施者:※実施者が複数の場合は、複数選択可 ☒ 自社(☐ 運転者 ☒ 整備管理者等 ☐ 自家整備工場) ☐ 外注(☐ タイヤショップ ☐ 整備工場 ☐ その他)
		◆使用工具:※複数選択可 ☒ インパクト ☒ トルクレンチ ☐ トルクセッター ☐ その他
		◆締め付けトルク: 600 N・m ☐ 不明
		◆ホイールボルト・ナットの汚れの状況: ☐ 有 ☐ 少し有 ☒ 無 ☐ 不明
		◆ホイールボルト・ナットの錆の状況: ☐ 有 ☐ 少し有 ☒ 無 ☐ 不明
		◆作業時のホイールナットの回り具合: ☒ スムーズ ☐ 少し引っかかり有 ☐ 不明
		◆ホイールボルトのねじ部及びナット部の点検実施: ☒ 有 ☐ 無 ☐ 不明
		◆ホイールボルトのねじ部及びナット部の清掃実施: ☒ 有 ☐ 無 ☐ 不明 ※有の場合は具体的な清掃方法: ☒ ワイヤブラシ ☐ その他: ()
		◆ホイールボルトのねじ部の潤滑材塗布: ☒ 有 ☐ 無 ☐ 不明 ◆ホイールナットとワッシャーの間の潤滑剤塗布: ☒ 有 ☐ 無 ☐ 不明 ※潤滑剤の種類: ☐ メーカー指定品(名称:) ☒ 指定品以外(商品名 ○○ケミカル)
		◆事故防止通達に基づく作業管理表(外注は作業報告)の使用・管理: ☐ 有 ☐ 無
ホイールナット交換の有無	☒ 有 (☐ 直近の脱着時 ☒ 過去 ○ 年 ○ 月) ☐ 無 ☐ 不明	
脱輪事故当日の日常点検の実施状況	※ホイールナットの締付状態の点検	◆実施者名:※実施者が複数の場合は、複数選択可 ☒ 運転者 ☐ 整備管理者 ☐ 整備担当者 ☐ その他 ()
		◆実施時期: ☒ 運行前 ☐ 運行途中 ☐ 帰庫時 ※複数選択可 ◆実施方法: ☒ マーキング確認 ☐ 点検ハンマー ☐ トルクレンチ ☐ その他: ()
		◆目視確認の導入: ☒ 有 (☒ マーキング ☐ インジケーター等装着) ☐ 無
		◆事故防止通達に基づく日常点検表の使用: ☒ 有 ☐ 無
増し締めの実施 (50～100km走行後の増し締め)		☒ 実施 ☐ 未実施
		【実施の場合】 ◆実施時期: 交換後(100 km ・ 日) で実施
		◆実施者:※実施者が複数の場合は、複数選択可 ☒ 自社(☐ 運転者 ☒ 整備管理者等 ☐ 自家整備工場) ☐ 外注(☐ タイヤショップ ☐ 整備工場 ☐ その他)
		◆使用工具: ☐ インパクト ☒ トルクレンチ ☐ トルクセッター ☐ その他
		◆締め付けトルク: 600 N・m ☐ 不明
		◆増し締めの認知状況: ☒ 知っている ☐ 聞いたことはある ☐ 知らない
		◆事故防止通達に基づく作業管理表の使用・管理: ☒ 有 ☐ 無
13. 補足事項等 (12. において、通常は実施しているが、事故車両については実施しなかった場合や、通常と異なる方法で実施したなどがあれば理由等も含めて記載)		

14. 事業者による原因調査の実施状況	☐ 実施 ☒ 未実施 ◆実施の場合は実施状況
15. 推定原因	例 自動車メーカーにおいて調査中 など
16. 再発防止策	例 ・原因特定後に策定予定。事故後、全車のホイールボルト及びナットの状態を自動車ディーラーにおいて確認した(●月●●日終了 全車異常なし)
推定原因の背後要因を記載	